

2022人事院勧告

3年ぶりの月例給・ボーナス引き上げ！

人事院勧告（国家公務員に対する勧告）のポイント

- ①月例給の引き上げ（初任給を含む若年層に限定）
- ②ボーナス（一時金）は、勤勉手当を0.1月分引き上げ 4.3月分→4.4月分へ！

人事院は8月8日、国会と内閣に対して、国家公務員の給与に関する勧告を行いました。

月例給・ボーナスともに3年ぶりの引き上げ勧告となったものの、官民格差を埋めるため、月例給の引き上げは、若年層に限定されました。しかし、物価上昇等の影響は世代を問わず、また新型コロナウイルス感染拡大の中で職務に奮闘している全職員に配慮すべきものであり、不満の残るものとなりました。

・・・と、ここまでは国段階の勧告です。

県の人事委員会は、私たちの給与と民間の給与について調査・比較し、10月に勧告を出します。私たちの生活を維持するためには、県労連、神教組を通して、私たちの思いを人事委員会や県に伝えることが重要です。

今後、**秋の賃金確定闘争の署名**や**寄せ書き**などを行います。積極的にとりくみ、待遇改善に向けて教職員一人ひとりの切実な声を県に届けましょう！！

文科省 2023年度概算要求発表

8月30日、文科省は2023年度の概算要求を発表しました。

人的配置に関わる主なポイントは次の通りです。

| | | |
|----------------------|---|---------|
| ・小学校高学年における教科担任制の推進 | + | 2,000人 |
| ・小学校における35人学級の推進 | + | 3,290人 |
| ・中学校における生徒指導や支援体制の強化 | + | 2,000人 |
| ・スクール・サポート・スタッフの配置 | + | 14,700人 |
| ・中学校における部活動指導員の配置 | + | 9,750人 |

概算要求は、政府の各省庁が「来年度はこれだけの予算がほしい」と毎年8月末までに、財務省に提出する翌年度の予算要求のことをいいます。

今回の概算要求時点においては、スクール・サポート・スタッフの配置が大幅増（2022年度 39億円 → 2023年度 103億円）となり、予算ベースで考えると、現在各校に配置されているスクール・サポート・スタッフの配置時間数、また、配置人数の増加が見込めます。概算要求については、2023年1月の国会において審議され、正式な予算として成立します。

県教育予算要求（総論交渉）

8月24日、神奈川県教育委員会に対して総論交渉を行いました。神教組からは、重点項目として、①教職員定数を確実に配置すること ②新たに始まる研修については、現場教員の負担にならないようにすること ③部活動地域移行にあたっては、県として予算措置等を図ること ④「働き方改革」については、今後のとりくみに関する具体的な施策を実施すること、市町村教育委員会に対する支援と連携を速やかに行うこと。等を要求しました。



湘南教組からは、①スクールソーシャルワーカーおよびスクールカウンセラーの更なる配置の拡充と時間数の増加 ②スクール・サポート・スタッフの時間数の増加 ③計画的な教職員定数改善について要求しました。

鎌倉市教委との全体交渉

8月8日、鎌倉市教育委員会と「2023年度教育施策・予算要求全体交渉」を行いました。

執行部の総括質疑としては、①湘南教組との事前協議及び協力体制の確立について ②鎌倉市教育委員会の2023年度重点施策について ③教職員の働き方改革・多忙解消に向けての具体的な対応について ④今後すすめられる教育施策についての4点を要求しました。



回答は次の通りです。

○2023年度の予算編成について

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況の中で、引き続き厳しい削減が予想される。教育委員会としての重点施策については、小中学校施設整備事業、ICT 教育環境整備事業、CS 整備事業などの重点事業は引き続き、着実に実施していくことが重要であると考えます。今後の鎌倉市教育大綱の理念と基本目標を実現するための重点施策にとりくむ。

○働き方改革・多忙解消について

鎌倉市学校職場環境改善プランⅡに基づく具体的な施策、校務支援システム導入による業務の効率化、小学校給食費の公会計化の実施をしてきた。また、小中学校全ての特別教室へのエアコン設置など、今後とも職場環境の改善に向けて着実にとりくみをすすめる。

教員不足については、年度スタートの時点では、一部非常勤対応の学校があった。年度途中の産育休、療養休暇などに伴う代替教員の配置について非常に厳しい状況になっている。教育委員会としては、神奈川県教育委員会、湘南三浦教育事務所、及び、県内各市町との連携をはじめ、教員養成課程がある大学、NPO とも連携をはかりながら、また、HP やチラシ配付による積極的な広報活動を行い、ありとあらゆる手段を講じて人材の発掘及び確保に努める。

○今後すすめられる教育施策について

特別支援学級の全校配置を含む、特別支援教育の充実、GIGA スクール構想の推進、鎌倉版CS の実施と設置の検討、部活動の地域移行に関する検討、子ども SOS 相談フォームなど相談体制の充実、かまくら ULTLA プログラムの実施や不登校特例校設置の準備、企業や大学と連携した特色のある教育活動など、さまざまな教育課題に対応するため、これらの教育施策を鎌倉の子どもたちの豊かな育ちのために、教育現場の声を大切にしながらしっかりとすすめる。

新たな教育施策が、子どもたちのためになるには現場教職員が理解し、学校が一体となってとりくむことが必要不可欠です。子どもの豊かな学びを保障し、教職員の主体性、創造性ある教育活動が展開されるよう、今後も分会員、執行部が一丸となって市全体としてとりくむことが重要です。

藤沢市教委との全体交渉・要求

8月1日、藤沢市教育委員会と「2023年度教育施策・予算要求全体交渉・要求」を行いました。

湘南教組からは、①教職員の健康を確保し、快適な職場環境を実現すること ②教職員の多忙を解消するための具体的な施策を講じること ③インクルーシブ教育推進に向けた条件整備をすすめること ④休職等の際する代替者の確保に向けた方策を講ずること ⑤臨時的任用教職員・任期付職員・非常勤教職員・再任用教職員及び市費講師の勤務条件について、任用時の説明や管理職および職員への周知等、働きやすい労働環境を整備すること等について要求しました。

教育委員会からの回答は各分会に一部別紙で配付しますのでご覧ください。教育施策・予算要求に関しては前向きな回答がありました。子どもたちの豊かな学びのため、私たちのよりよい労働環境のため、早期の段階で目に見える形で改善されるよう、今後も声を上げていきましょう。



湘南教育研究交流会

8月20日に、大船小学校にて湘南教育研究交流会を行いました。湘南教研の代替の場として、約300名の分会員が参加し、午前は、「多忙化」「小中ICT実践」「インクルーシブ教育」「たのしい授業づくり」午後は、「多忙化」「平和」「評価・評定・通知表」「世間から見た教員」のテーマで、地域をこえた情報交換・意見交流を行いました。



「多忙化」においては、日々の授業研究・児童生徒対応で時間が足りないのに、コロナ禍による業務や新しく入ったICT機器の研修などが増えて多忙に拍車がかかっている、その上、人的支援や教育予算も増えないことに対する疑問や不満が多く話題にあがりました。「多忙化で一番困るのは、教育を受ける子どもだ！」という言葉が印象的でした。

また、ICTという言葉が多く出ました。「市町によって使っているタブレットが違う」「こんなICTの使い方があったのか」「2学期の授業でやってみたい」といった様々な交流が行われました。他にも

- ・多忙化について、自分たちの意識が変わらないといけない。
- ・人事については、少子化に伴い、今は多く採用しないように留めているという話を聞き、そこまで考えたことなかったなと思う。
- ・通知表を校務支援ソフトでやると良い面もあれば反対に大変な面もあるように思う。
- ・校務支援の通知表を使っている学校があるが、先行して何校かやってから使っていると聞いて驚いた。
- ・評価でAをつけるなら事前に子どもに伝える。当たり前だなと思いつつ、やりきれていない部分もあるのでとりくみたいと思う。
- ・“自己選択”、“自己決定”をできる授業を作っていきたい。
- ・他校の先生と交流することが減ったから、顔を合わせて考え合うことの大切さを改めて感じた。
- ・他市町の先生方と情報共有が貴重だった。
- ・普段の悩みにあったテーマでこの内容を職場でできるといいな。
- ・小学校の様子が分かり、中学校での仕事にいかせそうです。



といった感想もありました。湘南教組書記局にワークシートや感想用紙などありますので、ご覧になりたい方は、ぜひ見に来てください。

コロナ禍の影響もあり、新しい形の湘南教育研究交流会でしたが、3年ぶりに地域をこえた交流を行えたことで、一人ひとりが思い思いのお土産を手にとったことと思います。湘南教育研究会に参加できなかった方たちに伝えていただくと、更に充実した湘南教育研究交流会に進化することができると思っています。

夏の教育実践講座

「キミ子方式」で絵を描こう！！

「僕は話始めると止まらないのですよ。」と松本先生のお話から始まり、「お団子ひとつ・・・」の歌で始まる方法で、「動きのある人物画」を丁寧、かつ面白く教えてもらいました。参加者は黄色のチョークで下書きをし、3原色プラス白を使って様々な色を作り出して描きました。



午後は背景の描き方の講習でした。「絵を描くことは苦手だと思っていたけど、(人を描く)手順を知ったら上手に描けた。」「教室内が優しい雰囲気に入れ、『よし、がんばろう』という気持ちが芽生えました。」などの声があり、絵を描くことに苦手意識をもった児童生徒へも生かせる講座でした。

ネイチャーゲーム ～五感を研ぎ澄まして～

日本シェアリングネイチャー協会の井上満先生を講師にお招きして、ネイチャーゲームの理論と実践について教えていただきました。

ネイチャービンゴ、木の葉のカルタとり、目かくし歩き、じゃんけん落ち葉集めなど様々なゲームや活動を行いました。感覚を研ぎ澄まして自然とふれあう体験はコロナ禍で忘れていたものでした。五感を使って自然を感じるうちに、心までも自由に開放されていくのを感じました。自然を感じる喜びや驚き、楽しさを共感するなかで、参加者の心の距離も近くなり、笑いにあふれるとても楽しい講座となりました。



井上先生の「先生に知識がなくても大丈夫。教師自身が自然体験をして、その楽しさや不思議を子どもに伝え、一緒に感動したり考えたりすることが大事なんだよ。」という言葉が強く心に残りました。子どもと一緒に活動を楽しむことを通して、感じ方は一人ひとり違うことに気づき、認め合うことの大切さを学ぶことができると感じました。また、季節ごとに行うことで、四季の違いの気づきをさらに深めることにもなると感じました。

エイサー ～からだを使って表現しよう～

エイサーは沖縄の伝統芸能のひとつです。本土の盆踊りにあたるもので、主に各地域の青年会がそれぞれの型をもち、旧盆の夜に踊りながら練り歩くそうです。



実践講座では、講師の栗原厚裕さんが三線を弾きならし、節を唄いあげ、その旋律にあわせて踊ります。何度も何度も、沖縄の音楽をからだに染みこませて踊っていきます。まずは拍のとり方。そしてそれに合わせた足の動かし方、次に上半身の振りというように学んでいくので、この実践講座が終わるころにはみんなが踊れるようになっていきます。分からなくなっても、自然と参加者同士が教え合って上達していきます。

最後の仕上げはパーランクーと呼ばれる太鼓を持って踊ります。時間とともにパーランクーの音と踊りがみんなと重なっていきます。参加者の心がひとつになる瞬間です。エイサーをマスターでき、表現の楽しさを味わうこともできました。

平和な世界の実現に向けた要請行動

毎年7月下旬に実施している原水禁神奈川平和行進に向けて、執行部でも準備してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により行進を行わず、今年度も、核廃絶・平和行政を求めて各自治体に要請行動を行いました。

ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻から半年が過ぎ、最近では原発の付近での攻防もあり、とても不安を感じます。さらに国内でも、原発の再稼働をめざす動きもあり、注視していく必要があります。原爆投下から77年を過ぎた今でも、世界には約15,000発もの核兵器が存在し、平和への脅威になっています。被爆された方々がますます高齢になっていく今、また、安保法制などで戦争をしない日本の平和が不安定になっている今、このようなとりくみを続けていくことは重要です。



2022 全国母と女性教職員の会

子どもたちに平和な未来を ～護ろう 憲法～

宮城晴美さん（沖縄女性史家）の「復帰50年・終わらない沖縄の戦後～子ども・女性の視点から～」についての講演にオンラインで参加しました。敗戦後の沖縄では1000人もの戦争孤児がアメリカの占領下、収容されました。合わない食事に体調を壊し毎日のように亡くなる子がいました。また、不発弾や爆弾落下後の穴に落ちて亡くなる子も後を絶たなかったため、すぐに学校が始められましたが、青空教室でした。さらに朝鮮戦争勃発後、沖縄の基地から真っ先に兵士が送られました。沖縄の生活は一気に荒れ始め、非行児・人身売買・家出・性的問題児が増加しました。また米兵の性犯罪増加で、多くの子ども・女性が犠牲になりましたが、なかなか問題視されない痛ましい状況が続きました。今でも、刑事裁判権でみると日米地位協定は日本国憲法の上に存在しています。米軍占領統治下から今なお続く不条理な現実を学びました。

何も考えず瞬時に敵を殺すことだけを教え込まれる兵士。上官の命令が絶対で自分の心は無い。その極限のストレスのはけ口になるのが弱い子どもと女性。まさに戦争は人の心も体も無くしていく。その戦争の入り口は「基地」。ロシアとウクライナの戦争報道とも重なり、遠い話ではないと改めて感じました。

基地が沖縄をはじめ日本に多数あること、憲法改悪の危機真っ只中の日本。日本は平和憲法を守ることができるのか。平和を守るのは私たち大人の仕事です。子どもたちの笑顔があふれる未来をつくりたい。改めてその思いを強くしました。

執行部のつぶやき

「イヤ」な部分を見ていると、「イヤ」で視界が埋め尽くされ、視野が狭くなりますよね……。でも、みなさんは、その状態が「よくない」ことは十分お解りでしょう。

組合への見方も同じだな、とふと思いました。イヤな部分を探せば、次々出てきます。動員、休憩時間を使った話し合い、月5100円の組合費、その他…。ただでさえ忙しい現場の教職員が、なんで組合活動しなきゃいけないんだ！と思います。「イヤ」になります。でも、私を含め、ほとんどの方々は組合を辞めません。「イヤ」だけど「必要」だからです。

「必要」の一番の理由は、「今後の働き方や給料・権利が悪くなってほしくないから」です。例えば、定年延長。日本教職員組合が、今後10年近くかけて定年延長に関わる課題について交渉します。組合の交渉力（＝組合員の数）が弱まれば、さらに業務は増え、さらに安く、さらに長く、さらに濃密にコキ使われることになります。他にも、組合が交渉していることはたくさん。教職員が余裕を失えば、子どもたちの学ぶ環境が悪化する。行政（主に国レベル）に対して、暴言も吐きたくなります（自主規制）。



働き方の改善は、行政が勝手にやってくれるものではありません。組合が現場の声を届け続け、また時には交渉していくことで、制度や給料を維持・改善しているのです。新しいものが入るときも、現場の負担が少しでも軽くなるように交渉しているのです。ネットや世論がどれだけ盛り上がり、行政と交渉するのは「組合」。だから、働き方に文句がある人、これからさらに押し付けられる仕事が増えるのが嫌な人は、辞めるべきじゃないです。

「イヤ」だけど「必要」。現に、今の働き方の「いい面」があるのは、みなさんが組合に入ってくれているおかげです。ありがとうございます。これからも、子どもたちのために、一緒ががんばっていきましょう。

「福島の子どもたちを湘南に呼ぼう」カンパ ありがとうございました

湘南教組は、「福島の子どもたちを湘南に呼ぼう」企画に賛同し、支援体制を整えてきましたが、コロナ感染拡大により中止になりました。ご協力を募ったカンパについては、242,859円集まりましたので、実行委員会に寄付しました。実行委員会からは「実施できなくて残念。今後実施する時に使わせていただきます。組合員のみなさんに感謝申し上げます。」と話されました。

ご協力ありがとうございました。



「定年延長組合説明会」開催！！

日 時： 9月21日（水）18：00～ 22日（木）18：00～

場 所： 湘南教育会館3階会議室

参 加： 今年度59歳（1963年4月2日～1964年4月1日生まれ）の方

※参加希望の方は書記局までご連絡ください。

湘南教組 当面の活動予定

| 日 程 | 予 定 | 開始時刻 | 場 所 | 対 象 |
|-----------|-------------------------|-------|-------------------|----------------------------------|
| 9月19日（月） | さよなら原発集会 | 13：30 | 代々木公園野外ステージ | 希望者 |
| 9月21日（水） | 定年延長組合説明会 ※両日とも内容は同じ | 18：00 | 湘南教育会館 | 1963.4.2～ 1964.4.1 生まれの希望者 |
| 9月22日（木） | | | | |
| 9月29日（木） | 青年委員会 ※両日とも内容は同じ | 18：30 | web | 青年委員 +希望者 |
| 10月3日（月） | | 18：00 | | |
| 10月2日（日） | 子育て応援セミナー | 10：00 | 湘南教育会館 または web | 希望者 |
| 10月7日（金） | 茅ヶ崎市予算要求全体交渉 | 13：00 | 茅ヶ崎市役所 | 執行部・ 各専門部 |
| 10月24日（月） | 寒川町予算要求全体交渉 | 15：00 | 寒川町役場 | |
| | 藤沢地域協議会 | 16：15 | 湘南教育会館 | 分会長 |
| 10月26日（水） | 茅ヶ崎・寒川地域協議会 | 16：15 | 寒川町民センター | |
| 10月28日（金） | 鎌倉地域協議会 | 16：30 | 鎌倉芸術館 | |